近畿ブロック

1.プログラム詳細

11 月 13 日(木)

時間	分	内容
10:00～10:30	30	受付
10:30～10:40	10	開講式 主催者挨拶(内閣府) 来賓挨拶(大阪府)
10:40～11:40	60	講演① 「子どもの交通事故防止について」 村山　敏夫（国立大学法人新潟大学人文社会科学系工学部工学科　人間支援感性科学プログラム教育学部保健体育専修）
11:40～12:40	60	昼休憩
12:40～13:40	60	講演② 「自転車の安全利用について」 彦坂　誠（一般財団法人　日本交通安全教育普及協会）
13:40～13:50	10	休憩
13:50～14:50	60	活動事例発表
14:50～15:40	50	活動事例発表を元にした意見交換会
15:40～15:50	10	講評(コーディネーター) 村山　敏夫（国立大学法人新潟大学人文社会科学系工学部工学科　人間支援感性科学プログラム教育学部保健体育専修）
15:50～16:00	10	閉講式 主催者からの連絡事項 事務連絡
16:00		終了

2.講義等の記録

■講演①

国立大学法人新潟大学人文社会科学系工学部工学科
人間支援感性科学プログラム教育学部保健体育専修
村山敏夫

「子どもの交通事故防止について」

1.研修の目的

●行為主体感と「自分事化」

「他の誰でもなく、自分がその行為を行っている本人（主体）である」という感覚を持ち、SDGs の観点から「自分事」として捉える。日本において「自分たちの力で社会を変えられる」と信じる若者は極めて少ないが、大人が主体的に活動する姿を見せることで、この「諦め」を打破することが必要である。

●「一人じゃない」と言えるつながり（生存戦略）

最終的に目指すべきものは交通事故のない地域だが、その鍵は「人とつながっていること」にある。医学的データによれば、倒れた際に見舞いに来る人数で死亡率が劇的に変わる。長生きの秘訣は、食事や運動以上に「地域でのつながり」にある。交通意識の高い住民が「久しぶり」と言い合える関係こそが、地域の安全と自身の健康を支える。

●楽しくできる・続けられる・幸せでいられる

誰かに「やらされている」のではなく、自ら選択して活動することは「ウェルビーイング（幸福）」に直結する。自費を払ってでも集まる防災ボランティアのように、仲間と過ごす濃い時間が活動の原動力となる。SDGs に取り組む住民が地域活動を評価しているほど、その地域の幸福度と定住意欲は高まる。

2.活動事例の紹介

●長野県の交通マナー

信号機のない横断歩道での一時停止率が全国 1 位の長野県には、渡った後に子どもがドライバーにお辞儀をする文化がある。この教育とマナーが「この地域に住みたい」という移住動機につながり、地域の幸福度を高めている。交通安全は、その地域の文化そのものである。

●地域住民や学生との協働と「人の目」

警察、大学、地域住民が連携し、ゴミ拾いや花植え、防災活動など、交通安全とは一見無関係な活動を入り口とする。歩道に花を植えれば、手入れのために人が外に出る。この「人の目」が増えることが、監視カメラ以上の抑止力（防犯・交通安全）となり、死角や危険箇所の認識を深める。

●同調圧力の打破と信頼関係（益者三友）

感染を「自己責任」と捉える「コロナ感染は自業自得」という風潮は、日本特有の厳しい同調圧力を象徴している。こうした不寛容な社会を乗り越えるため、誠実で実直な仲間（益者三友）との信頼関係をつくる。そして交通安全活動を通じて、地域内の孤立を防ぎ、助け合える親友を地域に増やしていく。

3.子どもの交通事故防止と「肯定的体験」の提供

●【子どもと一緒に交通教育】と「肯定的体験（PCEs）」

子どもを教育対象とするのではなく、活動のパートナーとする。幼少期から大人と触れ合い、交通安全活動を通じて「大切にされている」「役に立っている」と感じる「肯定的体験」は、虐待や貧困などの「逆境体験（ACEs）」を持つ子どもの将来的な疾患リスクを半減させる。交通安全は「人を育てる活動」である。

●子どもを介した「心に近い人」への行動変容

大人が注意喚起するよりも、孫や子から「スピード出さないで」「早くライトをつけて」と直接言われる方が、大人の行動は変わる。子どもたちの声を、地域全体の交通マナーを向上させるスイッチとして活用する。

●空間認知能力の向上と遊びの重要性

7 歳児の飛び出し事故が最多である理由は、視野の狭さ（チャイルドビジョン）に加え、距離感（ペリパーソナルスペース）の認識が未発達なためである。

対策：

知識を教え込む前に、まずは子どもと一緒に全力で遊ぶ。鬼ごっこやタッチ、ジャンプなどを通じて身体的な距離感や視野感覚を体得させ、そこに少しずつ交通の話を加えていく。

4.逡巡（しゅんじゅん）の罪

「やって失敗するよりも、やらずに後悔すること」を恐れるべきである。挨拶が不審者扱いされるような生きにくい世の中であっても、理解者を増やし、一歩踏み出す。皆さんが日夜行っている交通安全活動は、決して間違いではなく、地域の幸福と子どもたちの未来を確実に救っている。

■講演②

一般財団法人日本交通安全教育普及協会　普及事業部長

彦坂　誠

「自転車の安全利用について」

※12 ページの北海道ブロックでの講演録を参照

■活動事例発表

桜井交通安全母の会会長

柴田　裕美

皆さん、こんにちは。桜井交通安全母の会会長の柴田でございます。本日は、私どもの行っている交通安全教室について説明させていただきます。では早速本題に移らせていただきます。桜井交通安全母の会は昭和 45 年 8 月に設立されました。令和 6 年度は 20 回の安全教室を実施しております。令和 7 年度も既に 20 回の予定が入っております。また、タイトルに「協力　桜井自動車教習所」とありますが、その全ての交通安全教室には桜井自動車教習所も参加していただいております。当然、ずっと自動車教習所さんは地域貢献の目的としてもありますが、子供たちが将来大きくなって運転免許を取る際に自動車教習所を思い出していただけて、利用していただければという側面もございます。母の会と自動車教習所の目的が一致したこともあって、一緒に行うこととなりました。それでは、ただいまから私たち母の会、桜井自動車教習所、桜井警察署による交通安全教室の模様について説明させていただきます。

写真を見ていただければわかりますが、制服を着たお巡りさんがバシっと最初に会場を温めてくれます。子供たちは制服のおまわりさんがとっても大好きです。次のページです。私たちが説明しております。見ていただけますでしょうか。次の自動車教習所団による説明ですけども、これ体育館で行っております。小学校で行う場合は、パワーポイントを使った説明で映像を使うことでわかりやすく説明しております。1 年から 3 年生の低学年は歩行をメインにした内容、4 年から 6 年生の高学年は自転車をメインとした内容を学年に合わせてやっております。

次の写真に行かせていただきます。高学年に対する自転車をメインとした交通安全教室で、ちょうど自転車の点検内容をパワーポイントで説明しているところです。スクリーンで説明するとともに、実車を使って具体的に説明してもらっているところもあります。学校側の要望としましては、低学年は歩行をメインとした教育、高学年は自転車をメインとした教育、幼稚園については信号機の意味などがメインとなることが多いです。どうでしょうか。

次の写真に行きたいと思います。これ、とっても子供たちに人気ですが、車両の死角についての説明です。これは車両の死角に関する説明ですが、乗用車やトラックの運転手からの目線で死角となっている部分や、運転手からは歩行者や自転車がいかに見えないかという映像を説明してもらっています。

子供にとっては、いくら言葉で説明しても死角というのはなかなかわからないものなので、目で見て視覚で覚えるということ。この視覚ですね。視覚で覚える方が良いかと思った映像です。「コーン見えないでしょ、ここからは」とかいうふうに説明してもらっています。

幼稚園では信号機の赤、青、黄色を子供たちにつけさして、子供は案外赤がどっちかわかります。先生は逆を言ったりしますが、こういうちょっとした気分を盛り上げる小道具を使ってやっております。これは多分皆さんもやっておられますよね。

次です。かわいいマスコットが写っておりますが、これは運動場で練習をしているところですけども、スライドに写っているのは桜井自動車教習所マスコットのさくちゃんです。このさくちゃんは小学校や園児に非常に人気で、いつも大変な騒ぎとなります。もう全部いいとここの子に持っていかれるので、私はこの子が今一番のライバルだと思っております。また、どの学校もさくちゃんの登場を楽しみにしておりますので、毎年来てもらいます。

次は教習所さんの体を張ったインストラクターです。教習所さんに実車を使ったデモンストレーションとなります。いつもではございませんが、子供がショックを受ける場合がありますので、しないでくださいという学校も実はあります。小学校と打ち合わせして実施するかを決めております。

このスライドはトラックを死角と見立て、自転車が道路に飛び出した際の危険性をスタント的に実施しております。子供たちはキャーキャー言って見てくれます。このように、道路を出る際に一時停止や安全確認をせず道路へ飛び出すとどのようになるかを目の前で実演することにより危険性を子供たちに肌で感じてもらえると思います。

次行きます。これも怖いです。駐車車両の側方を自転車で通過する際の実演です。駐車車両の側方を通過する場合は、車のドアが急に開くこともあるなどの危険性について実演してもらっています。

これもすごいです。道路を進行中に死角となる部分から歩行者が飛び出すこともあるとの実演です。また、逆の立場で歩行者としてどうするべきか説明しています。ここで教習所さんの方がおっしゃるのですが、どうして教習所の人は怪我しないのですか？事故にならないのですか？と言う質問がありましたが、僕たちは出てくるのがわかって練習するから大丈夫です。あなたたちはわからないで飛び出してくるからぶつかりますっていうことを一言添えていただけます。いかにわかってするかしないかっていうのはとても大きいことのようです。

次は自転車の講習ですけれども、自転車の乗車に関する交通教育を行った後、子供たちの実演に入る前に教習所の方が模範走行していただきます。このように道路への進入方法、さっきおっしゃっていましたよね、こけてしまうとかいう道路の走行位置、交差点や踏切の横断方法などについて、それぞれの場面を丁寧に説明していただいております。

いよいよ子供たちの自転車乗車の演習です。母の会、自動車教習所、警察などがそれぞれのポイントで見守り、適切に行われているか確認説明をしております。次は私たちが模範歩行をしているところです。さりげなく主張しております。小学生に対する歩行訓練です。ここもポイントにそれぞれ立ってできているかどうかをチェックしております。園児による歩行訓練です。さくちゃんばかり気になって歩行訓練なんてほったらかしになることもありますが、愛ある教室を行っております。こちらも歩行訓練の様子です。

次は子供たちに対する安全教室ではないですけれども、マナーアップ大和路 2025 の一環としまして、啓発活動強化日を設定し、母の会、警察、自動車教習所に桜井市内のスーパーで 2 か月に一回、交通安全に関して啓発を行っております。この場合も可愛いさくちゃんが来ると人が集まりますので、チラシが配りやすくなります。

この啓発活動には、母の会の常任理事だけではなく、各区それぞれの PTA、小学校、中学校、幼稚園の保護者の方が理事となり参加していただいております。ただいま説明しましたように、桜井自動車教習所の協力により交通安全教室は内容に厚みが増しましたし、啓発活動においても大変な協力をいただいております。パワーポイントや実演を目にすることにより、より記憶に残る内容になっていると思います。それでは、これで説明を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

滋賀県交通安全女性団体連合会　会長

小崎　冨美子

皆さんこんにちは。今日は素晴らしい発表資料を本当に頑張ってやってくれたのですけど、外せない用事ができたということで私が代わりにお話しさせていただきます。

滋賀県は皆さんご存じのように、真ん中に琵琶湖があります。そしてこの「通り抜けの米原市」って書いて

ありますけど、江戸時代から交通の要所として関ヶ原方面、木之本方面をつなぐ国道 365 号線、そして関ヶ原方面、米原彦根方面をつなぐ国道 21 号線、木之本方面、長浜・米原・長浜方面をつなぐ国道 8 号線とね、本当にたくさんの車線が入ってくるところでございます。そしてね、今日、村山さんがおっしゃいましたね。久しぶりっていうのがね、すごく減ってきて寂しいなとね。皆さん、その昔はあの人に会える中から奈良から来る、大阪から来るとね。すごく楽しみにしていました。今年は本当に少なくてね、ちょっとがっかりしちゃいましたけども。時代と共に、方法が変わってきたから仕方がないと思いますが、でも 1 年に一回ぐらい一緒にやっているメンバーが一堂に会して発表するのもいいことじゃないかなと思いますので、その意見だけを申し上げます。またよろしくお願いします。失礼しました。

御坊市交通指導員会

嶋　富子

皆さん、こんにちは。和歌山県にある御坊市の交通指導員の嶋富子と申します。よろしくお願いします。今日は私たちの活動を発表させていただきます。御坊市は海、山、川の豊かな自然と温暖な気候、様々な時代の建物が残る歴史ある町並みで、和歌山県の中心に位置する日高地方の中心都市としての役割を担っています。

現在、市制施行 71 年目になり、9 月末時点で人口は 2 万 760 人と減少傾向となっていますが、都市機能が充実した暮らしやすい街で、自治体の住み良さの示す指標として知られる住みよさランキング 2023 年度版では、総合評価が近畿 2 位となるなど、雇用、教育、医療などが充実したまちです。

御坊市交通指導委員会についてですが、組織は会長を筆頭に現在 12 名で構成されております。主な活動は各安全運動時に街頭啓発活動、早朝の通学路指導、主要交差点等の自転車指導、小中学校等での交通安全教室、地域の花火大会、祭り等のイベントに出動し、交通整理等にも従事しています。

今回お話しさせていただく子どもの交通事故防止については、御坊市交通指導委員会の事務局には県警から出向で来ている市職員がいるため、警察署と連携して 1 年を通じて市内の全ての保育園、幼稚園、小中学校に対して交通安全教室を行っています。それぞれの交通安全教室で、年齢別に応じた交通事故防止に関する交通安全教室を実施しています。

例えば、保育園幼稚園においては、右手左手を上げる、手遊びをして手を挙げる楽しさを教えたあと、横断歩道を渡る際の挙手につなげていきます。他にも、劇などを通じて飛び出しませんといった言葉の意味を理解してもらい、小さな子どもの道路への飛び出しを防止する交通安全教室を実施しています。

次に、小学校での交通安全教室では、低学年には歩行指導として和歌山県が重点的に取り組んでいる「サイン＋サンクス運動」を教え、天気が良ければ運動場で雨天の際も体育館において仮想横断歩道を使って実施しています。「サイン＋サンクス運動」とは、ここにも書いていますが、令和 4 年から和歌山県が取り組んでいる運動で、横断歩道を渡る時に歩行者は手を上げるサインなどをして運転者へ横断する意思を明確に伝えることに加え、停止してくれた運転者に対しありがとうの気持ちサンクスを会釈などで伝えることで、運転者に横断歩行者保護の意識を向上させ、横断歩行者事故を抑止することを目的とした運動です。これは、横断歩行者が会釈などでありがとうという感謝の気持ちを伝えるため、横断歩道を渡る前に運転者とアイコンタクトをする習慣が身に付き、安全確認の徹底を図ることができます。

逆に運転者は感謝の意を伝えられることで、止まって良かったという心地よさから、次も止まろうという意

識の継続性につながります。また、児童等は横断歩道の手前で車が止まってくれたという経験を重ねることで、自身が運転者となった際に、横断歩道における歩行者優先の意識が根付きます。

和歌山県が信号機のない横断歩道で、歩行者横断時における車の一時停止状況を調査した結果、手を挙げない場合の車の停止率 5%に対し、手を挙げた場合は 85%で、手を挙げない場合の 17 倍という結果となり、歩行者が運転者に対し横断する意思を明確に示すことが車の一時停止率向上に効果的であり、さらに横断歩行者事故の抑止につながることがわかりました。

このようなことから、御坊市交通指導委員会としても「サイン＋サンクス運動」を推進しているところであります。また、小学校高学年については、「サイン＋サンクス運動」はもちろんのこと、自転車に乗る機会が増える年齢でもあるため、自転車の運転指導を実施しています。

実際に自転車を見ながら、「ブタはラベル」という言葉で「ブ」はブレーキ、「タ」はタイヤの空気、「は」は反射台、「ラ」はライト、「ベ」はベル、「ル」はルールというように、自転車に乗る前の点検項目を教えています。また、今年の 9 月には市内の小学校において、自転車の乗り方や交通安全知識を競う安全運転コンテストを実施し 6 年生を対象に体育館で仮想横断歩道を走行する運転試験と教室で交通ルールに関する筆記試験を実施し、先生方からも大好評でした。

最後に中学生についても同様に自転車指導を実施しており、令和 8 年 4 月から自転車の交通違反に青切符が導入されることを踏まえて、運動場などで様々な障害を設置した模擬道路を自分の自転車で走行してもらい、より実践的な運転訓練を実施しています。

先ほども言いましたように、市内の全ての保育園、幼稚園、小中学校に交通安全教室を行っており、誰もが「サイン＋サンクス運動」を見聞きするなど、長期的な視点で幼少期からの交通安全意識の向上を努めています。以上が、御坊市交通安全指導会が主に取り組んでいる子どもの交通事故防止活動となります。ご清聴ありがとうございました。

大阪府母の会の交通安全クラブ連合会

河田　英子

皆様こんにちは。今日ここから本当に大阪城が美しく見えまして、皆様方、大阪に来てよかったなと思ってくださっているかもわかりませんけれども、本当にビルがいっぱいの大阪になってしまいまして、死角がいっぱいというような、本当に交通事情も本当に生きることすら難しい都会になってしまいました。

大阪府母と子の交通安全クラブ連合会会長の河田英子でございます。どうぞ本日は当連合会の活動について皆様方に発表いたしますので、しっかりとお聞きください。肩も凝ってきたかわかりませんので、ちょっと肩を回していただいて聞いてくださいませ。

私たちは初めに組織概要についてちょっとお知らせいたしますけれども、当連合会は、昭和 50 年代前半の交通事故が多発する中、皆さんご存じのとおり、列島改造論でございますよね。その交通安全は家庭からということをコンセプトに、未来ある子どもたちを交通事故から守り、交通安全教育を積極的に推進して、地域における交通安全意識の高揚を図ることを目的に、昭和 55 年 9 月に設立されました。現在は 38 の地区クラブ、370 の幼稚園保育園が加盟しており、全会員数は幼稚園、保育園関係者、保護者、幼児合わせて約 6 万人で、昔は 17 万人がおりましたけれども、それだけの少子化となっております。

反対に、今年はインバウンドでございましたので、日本人の大阪人だけじゃなくて、他府県の方や外国の子供が本当にたくさん来られたので、また国際免許で走る方もありましたので、もうとても怖い 1 年でございまし

た。主な活動でございますけれども、当連合会は春の全国交通安全運動、交通安全母親活動指導者研修会、交通安全キャラバン隊、3 世代みんなの交通安全教室を行っております。

まず初めに、大阪府交通対策協議会が主催する春の全国交通安全キャンペーンの様子です。この今年度は、大阪府庁本館正面前で開催されました春の交通安全キャンペーンと言いましたら、桜がとても美しくて、大阪城がよくて、今年は雨が降ったりしましたので、部屋の中で外に子供たちも来てくれましたけれども、ちょっと雨で残念でございました。でも、キャンペーンモデルのゆうちゃみさんと一緒に地元園児による交通安全宣言、子供たち素直ですから、命を守りましょうということをしっかりと頭に入れてくれたと思います。それから大阪府警察音楽隊、交通安全教室等を行い、府民の皆様に交通安全啓発を行いました。

皆様、知っておられるかと思いますが、子供は新しいことを知ることにとても好奇心がございます。音楽が鳴って、パトカーやそういうものを見て、そしてみんなで仲良く命を守りましょうと申しましたら、本当にそのつもりになってくれますけれども、環境そのものが子供たちにとっていいのかどうか、そこらへんが私たちのとても悩みです。

続きまして、交通安全母親活動指導者研修会。この研修会は、保護者の方々を家庭や地域における交通安全指導者として育成するという目的で実施しております。今年度も各地やクラブから会員が集まりまして、大阪府警察による交通安全教室の実施、自転車販売会社の堺サイクル株式会社から自社で取り組まれているデンマーク方式の自転車教室、これはどちらかというと市内の都会ではちょっとできません。緑があるような広いところで、子供に自由に坂はどういう風に上がるかとか、降りるかとか、どのように曲がっていくかとか、いうことを楽しくさせることですけれども、大阪の市内にはそういう土地はございません。本当に府内のまだまだ山やら切り開いてないような広いとこがなければだめだなと思います。今日の話を聞いていて、広い場所がおありになる山間部があるとかところはうらやましいなとちょっと思ってしまいました。

それともう一つ、大変有意義な研修会ですけれども、この 48.8%の女性が働いているという時間ですから、研修いたしますから参加してくださいと申し上げましても、なかなか前のようにたくさん集まっていただけません。これがとても残念に思います。それもう一つ、やはりマナーとかルールを守ることは、礼儀作法もそうですけれども、やはり心がまっすぐでないと聞けないことです。人よりも早く前へ行こうとか、人口密度の高いまちでは、そうやってお仕事をしておられるお母さんたちは時間に追われておられるので、なかなか命が大事だということをわかっておられても、ルールを守るということをなさらない方もいらっしゃるので、私たちはそれを必死に、視野が狭いですよ、大丈夫ですか？飛び出しダメですよっていうことをお母様たちにも聞いていただきます。

そして、交通安全キャラバン隊事業です。交通安全キャラバン隊は、連合会役員、地元自治体、警察等で構成しており、象徴であるキャラバン隊旗を抱えて各地区の幼稚園保育園を訪問します。そして、交通安全の啓発を行うものでございます。毎年、大阪市内、大阪市外の幼稚園をそれぞれ 1 園ずつ訪問します。今年度は大阪狭山市、結構南の方ですけれども、まだ空気もよろしいし緑もいっぱいございます。こんなところだったら子供の交通事故も少ないなって思ってしまいました。ですけれども、やがてマンションが駅前に建つそうで、ちょっと危ないなっていうようなことを先生おっしゃっていました。生野は 54 カ国の人が住んでいるというような、区長さんが大変ですっておっしゃっていましたけれども、結構皆さんお行儀がいいですね。ですから、園長先生がおっしゃるに、仲よくしてルールを守っていい町にしようという、そういう雰囲気があっていいですよっておっしゃっていましたので、子供たちは元気でとても素直ににこやかにお話を聞いてくれたりしてくれてありがたく思いました。

大阪府交通安全協会による交通安全教室ルールを守りましょうということをしっかり子供に話してくださいました。子供たちはお返事するのがとっても上手ですけど、本当かどうかはやっぱりお母様の家庭教育がとても大事だと思いますけど、最近、家庭教育の勝手な教育という方になってまいりまして、お母様もご自分の命が大事ですよって申し上げますけれども、前に後ろにシートベルトもしないで子供を乗せられる親もいらっしゃるので、子供たちから乗るときはシートベルトをちゃんとしてねとか、ヘルメットをかぶってねとか。先ほどもおっしゃっていましたけど、本当にヘルメットかぶらない大阪ですので、お願いをするっていうことがとても大事ですけれども。子供から頭大事よ、気をつけてねってお願いしております。ここに書いてありますように、交通安全の 6 つのお約束をちゃんとしてくれまして、そしたら皆さん片手の指を出していただいて「飛・び・出・さ・な・い」この後、小指で指切りげんまん嘘ついたら針千本飲ますってやりますが、今の方はおうちで針を持たれるお母さんは少ないそうですので、針千本がわかってくださるのかなっていうことをすごく思うのですけれども、でも子供たちはやはり危ないから全部のむっていう罰だから、やめましょうねってお約束して、飛び出しが一番怖いのよってお話しています。子供は素直ですから聞いてくれますし、やっぱり中学校の職業体験とか高校生。高校の子たちにもやっぱり反抗期っていうのがありまして、親がしたらだめなことをしたくてたまらない。もう二輪車買いたいバイクを買いたい、私来られたら自分の命を落としたかったら買いなさいっていつも言っています。あなたがルールを守っても、ルールを守らない人がいるから殺されるかわからないわよっていうこと。あまり言うとハラスメントです。それはいけませんけれども、やっぱりルールを守ってくれるように子供にお願いしてきました。今後も各市町村や警察署と連携して、交通安全キャラバン隊の活動をどんどん推進していきたいと思います。

先日幼稚園で運動会をしましたらひとりの子にお父さん、お母さん、お爺ちゃん、おばあちゃん、ひいおじいちゃん(曾祖父)、ひいおばあちゃん(曾祖母)、おじさん、おばさんで一人の子に 11 人来まして。もうほんとびっくりしましたけど、それだけ老齢人口が多いと言うことでございます。ですから、お年寄りにも子供と保護者さん、高齢者の 3 世代を対象に、子供や高齢者にわかりやすく交通安全と防犯について学んでいただくということをしております。

また自転車ヘルメットの利用徹底、もう大阪は最低でございますけれども一生懸命、大阪府警本部から交通安全協会が一丸となって、また民間企業から子供用のヘルメット、それから高齢者用の自転車ヘルメット、ご寄贈をいただきました。ありがたかったです。お母さんたちに買ってくださいって言ったら「先生、高いですわ。安くならないですか？交通安全クラブに入っていたら割引ないですか？」とかっておっしゃるので、もう負けそうだなと。自分も若いときそう言っていたのかわかりませんけど、とてもお金に厳しいです。ですけれども、これだけ物価が上がったら頭なんか絶対打たないと思ってらっしゃるので、打ってからでは遅いですということをいつも申し上げます。昨年度から保護者世代にもヘルメットを着用してもらう。お母さんやお父さんに問わず着用しやすいキャップ型のヘルメットもご寄贈をいただき、子供たちから自身の保護者へお母さんにもヘルメットをかぶってねと言ってねってお願いして。子供って本当に素直です。私たちもきっとそうだったと思いますけど、素直ににこにこして、「僕もかぶるから、ママもかぶって」って。それで保護者の方は高いけどいただいたらうれしいですってかぶっておられますね。タダほど安いものはないですけど、ヘルメットの会社はとっても大変だと思います。

交通安全教室では、自転車のルール、交通マナーについていろいろ教えていただきました。やっぱりそのついでですけれども、みんなも大きくなったら運転免許をとるから、約束は守りましょう。人を追い抜いたり、人とぶつかったりしたらけがをする。それだけを覚えていてねって。命は一つなのよ。命は誰も交換してくれない

の。そしてまた、自分が大丈夫と思っていても、間違ってぶつかってくる人がいる。だから気をつけないとだめよってお願いしています。

また、防犯教室もいたしております。大阪怖いですよ。とにかくもうインバウンドでいろんな人が来て。中学校の職業体験に来た子がでも英語をしゃべりたいって言いますが、学校で勉強しなさいって言っています。

最後に子どもたちはみんな交通安全ストップ体操っていうのはおばあちゃんにもしてもらったのですが歌を歌って、これ 40 年やっていますが、おばあちゃんたちうれしそうに子供と一緒に踊られますけど、やっぱり音楽や、それから楽しいお話やいろんなことがあって、やっぱり子供たちの中に自動車は怖いとか、信号は守らなきゃいけないとか、そういうことを一つ一つ言っていただいて、人に対する思いやりがある運転者になるように、やっぱり早くから、これは本当に危機管理という授業が学校でいるのではないかと思いますね。このごろ挨拶もバイバイって子供が言うのと一緒に、お母さんもバイバイって言っていらっしゃるから、ありがとうございましたとか言われる昔と違うのだと。大学の生徒でもそうですけど。ありがとうございましたとか言って帰ってくれる子もいますけど、無言で会釈する子もまだましかな。もう目の前に出ていく子もいるので、ちょっと世の中日本変わってまいりました。皆さんやっぱり、昔からある日本の良さ、特にこの近畿地区それぞれに素晴らしい歴史がございますので、みんなで心を合わせて命を守ってまいりましょう。

だんだん年をとってまいります。若手の方に引き継いでほしいと思っていますが、若手の人は時間給いくらですかって聞かれるので、時間給ないですって。物あげたら何か賄賂だとか何とかになっていけないし、こんな難しい世の中になるとは思いませんでしたけれども、自動車会社が儲けているのなら、いくらかこの交通安全運動に寄与してくれたらなと思いますけど、トランプさんは関税で取っていくので、まだこれも邪魔になります。

本当に皆様方の知恵で私たちもご一緒に連合会も頑張ってまいりたいと思います。悲惨な交通事故をなくすべく、今後も大阪府、そして大阪府警本部、それから市町村、関係する各区と各所管と連携を図りつつ、お母様、お父様、そしておじいちゃま、おばあちゃま、そして大事な子供たちみんなで効果的な交通安全対策を継続的に実施してまいります。

昨日、安全運転管理者の講習に行きまして、1 日交通安全の話を勉強してまいりました。でもこれやっぱり普通の免許持っている人に 1 年に 1 回か 2 回は行って勉強してきてもらってそのハンコがなかったら次の年に乗れなくなるぐらい厳しくしないとめちゃくちゃな運転なさる方があります。あと健康診断。もうこれだけ、先ほど先生おっしゃっていましたけど、一番は命です。命がなかったら、もう本当に人間何もできません。ですから命の大切と美しい心、優しい心、思いやりある運転をする、急いでいかない、焦らない、子供を焦らせない、人を出さない、それからストレス。自分さえよかったらいいという、我さえよければいいという自己中心がアメリカナイズして。私は昔アメリカに留学しておりまして、48 か国を回りましたけれども、エジプトの言葉にも人には親切にせよ譲れというような言葉がございます。ですから、そういう言葉を日本の伝統の中にありましたのに、だんだん変わってまいりましたので、みんなのお力で何とか日本を素敵な国に戻してまいりましょう。車があんまり増えるのは、国にお願いして高市さんにお願いして、もうこれ以上車作らんといてって言いたいです。ありがとうございました。

兵庫県県民生活部くらし安全課交通安全対策班副主任

上瀬　裕太

皆さんこんにちは。兵庫県くらし安全課の交通安全対策班の上瀬と申します。本日はよろしくお願いしま

す。今日はですね、兵庫県の自転車安全利用についての取り組みについて皆様に少しお話しさせていただこうと思っております。それでは進みます。皆様のやっておられるボランティアとはちょっと形が違いますが紹介させていただきます。

まず2ページ目ですね。兵庫県では登下校する自転車利用の高校生の交通事故が多いということで、自転車安全利用モデル校という事業を実施しております。まず、兵庫県でどれぐらい高校生の交通事故が多いかといいますと、右下に表を作っております。こちらを見ていただければ、高校生は赤色の強調した部分、これ人口 1 万人あたりの死傷者数を出した表ですけども、高校生は赤色の強調した部分の 38.87 人となっており、高齢者の約 8 倍、中学生の約 3 倍、高校生の死傷する交通事故がいかに多いかがわかります。高齢者の死傷者数が高い表示をしておりますが、高齢者人口が多いためとなっております。

次、3 ページ目ですけども、このような高校生が被害に遭う、交通事故が多発するために、兵庫県では自転車安全利用モデル校という事業を立ち上げて活動することとしました。この事業は、県が学校に対してお願いベースではなく、生徒が主体となって自転車の安全利用を考えてもらい、企画して実践をするっていう活動になります。モデル校に指定させていただくには条件が 3 つほどありまして、自転車通学生が全校生徒の 3 分の 1 以上、生徒学校を挙げて自主的に取り組む意思を有していること、自転車での通学条件にヘルメットの着用に努めると明記していただくことを条件としております。

次がこの一覧表。現在、参加校は公立私立高校合わせて 16 校となっております。この 16 校にはヘルメットを製造販売している株式会社 OGKKABUTO 様に応援協力していただき、ヘルメット 3000 個を寄贈いただきまして、別の協力企業様からはヘルメットの盗難防止を目的としたダイヤルロック錠を寄付していただき、各校で私ヘルメットをかぶるよって手を挙げてくれた子に配布し、活動を推進させております。

今ご覧いただいているヘルメットの写真が OGKKABUTO 様より寄贈いただいたヘルメットになります。このヘルメットをモデルにして、兵庫県マスコットキャラクターのはばたんにも特注でヘルメットを製作していただき、はばたんに被らせてですね、県内各所のイベントに参加して、自転車乗車用ヘルメットの重要性を訴えかける活動をしております。

次、6 ページと 7 ページについては、モデル校に参加していただける各校の取組になります。これも先程言いましたように、各校が自主的に取り組んでくれていることで、県が頼んだわけではないのですが、毎週決まった日に自転車通学の学生が全員ヘルメットを着用して登校するとかですね、ヘルメット着用を訴えかける動画を作成してくれたり、あとは警察署と協力して白バイ先頭で真ん中を自転車通学生が走って後ろをパトカーが抑えて市内をパレードしてくれたり、行政だけでは考えることのできないような様々な取組を自主的に、また積極的に行ってくれております。この写真とかですね、活動については兵庫県のホームページに掲載し、今後も更新していきますので、お時間がある時にでもご覧いただければと思います。

次に 8 ページ目、青いポスターが表示されていると思いますが、俺は来年 4 月より施行されますね、自転車の交通違反に対する交通反則通告制度適用、いわゆる青切符、先ほどから先生方が言われているように、青切符の適用を啓発するために本県が作成したポスターになります。これについても芸術大学とかですね、デザイナーさんが無償で協力してくれて作成に至ったものとなっております。このポスターは、各自治体や大型の駐輪場、また自転車販売店、あと各バス会社に協力いただき、県内を走るバスの中にも掲示してもらっております。兵庫県に来られた際、旅行とかで来られた際はあちこちに貼ってあるかもしれませんので、それも見ていただければと思います。また、ポスターには QR コードを載せてですね、それを読み取っていただいいただくと、県の自転車安全利用のページに飛ぶようにしております。それで、一人でも多くの方に

自転車のルールを理解してもらえるように作成をしているところであります。

最後に、9 ページ目ですけども交通事故を減らすためには、行政とか警察、関係機関や団体との連携が絶対に不可欠だと思います。人命を事故から守るのが我々の仕事であり、死亡事故抑止はみんなの願いであります。予算がないからとか、あの企業は協力してくれないから声かけないでおこうとかってですねとかですね、理由をつけて諦めないで、県だけでどうにもならないなら、いろんな機関、関係機関、団体に声をかけさせていただいて、協力を求めることで何とかなるかなるのではないかと思っております。

今後も、もしかすると皆様の団体に協力依頼をさせていただくことがあるかもしれません。その際は何卒よろしくお願いします。本日はお話をさせていただく機会をいただき、ありがとうございました。以上で兵庫県の発表を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

■活動事例発表を元にした意見交換会

コーディネーター
国立大学法人 新潟大学 人文社会・教育科学系工学部工学科
人間支援感性科学プログラム教育学部保健体育専修
村山 敏夫

村山先生：はい、改めましてよろしくお願いします。各県、各地域の皆様の取り組みをお聞きすることができました。本当に日々の努力をされているのを私も感じることができました。ここからは私が話をするというよりも、皆さんがこう気になっているところとかをお互いに聞き合ったり、お互いに助言し合ったり、そういった時間になればなというふうに思います。私は皆さんのお話を聞いて、いっぱいメモをして、聞きたいこともいっぱいありますが、まずは皆さんから手を挙げていただいて、そして皆さんの中でやりとりしていただければなというふうに思います。何かご質問だとかご意見だとかあれば、手を挙げていただければと思います。

●：今日はこういった近畿 2 府 4 県の方々と 1 年ぶりに会えてとてもこういう場がうれしく思います。ありがとうございます。いっぱいご意見を聞かせていただいて、これはうちがやっている、これは見習わなきゃいけないなとか、これはやってないからやらなきゃとかね。いっぱいご意見をいただきました。ありがとうございます。

その中で一つだけ先生のお話し、今度またしてほしいなと思うことがありまして、うち、奈良県の小さな町ですけれども、今も登下校の見守り隊を高齢者の方たちがしてくださっております。おわかりになるかな。ほとんどシルバーの方とか、あるいは新しい小さな子が学校へ行くようになったということで、登校するとき、また下校時に自分たちの健康のためにも学校へついて歩いていっています。その見守り隊の方たち、これも町の方が募集してやっている団体ですけども、交通安全に関してあまりご意識がないようです。ですから、私たちが朝とか昼とか登下校時の時に交通指導とかしていても、信号が赤になっても止めない。だから、それは行政の方へ私たち交通安全教育をしっかりした見守り隊の方たちに教えてくださいってお願いはしますが、窓口が私たちとこの班の会の方と、交通安全の方とは違うので、なかなか揃わなくて。またご高齢の方、車は止まるものというような感じでいらっしゃる方が多くて、子供たちを赤のままで終わるまで渡らすみたいな感じで方法が違うのです。だから、そういったことの点、どうしたらこう合同にきちっとした交通安全指導をできるかということをまたお教えいただきたいと思いまして。お願いいたします。

村山先生：ありがとうございます。今お話を聞いていて、うちの新潟も同じように見守り隊がいます。私の通勤経路のところにも 80 近い方が長らくそこにいて、だんだん足が悪くなってきたのかいつしか椅子を一緒に置きながら、それで毎回子供たちが通るたびにジャンケンポンとやりながらやっていました。ジャンケンおじちゃんなんて言われながら。いつだったかちょっといなくなっちゃいました。それで近所の人に聞いてみたら、体調崩したって。それでそのおじいちゃんがそのまま亡くなっちゃったのですけど。一時期そのジャンケンおじいちゃんがいなくなっちゃって、子供たち寂しそうでしたけども、息子さんが代替わりしてくれて、息子たってなかなか 80 の息子さんなので、なかなかのものですが、今一生懸命やってくれていますね。

皆さんどうですか？見守り隊を含めた交通のそういった仕組み、団体だとか、何かうちの地域はこうなっているよとか、うちも同じ課題があるなんていう話、どうか何かあれば手を挙げていただければと思います。確かにそうですね。奈良県の先程のお話を聞いてもそうですけども、20 回その地域で 1 年間活動するって。うちの学生たちを総動員したって、1 か月に一回集まってやるのが精一杯だっていうのに、20 回ってなかなかだなと思って。インストラクターを招いて、あの青森の方でも話をしていましたけども、インストラクター一回招く

のに 30 万かかるって言いますよ。そういうのをやって、どこから予算出るのかなんて話を想像しながら奈良県で頑張っているなと思いました。はい。それらも含めていかがですか？奈良県の今のお話に対して、うちはこうだなんていうご意見があれば、ぜひ。

●：私はその滋賀県の女性団体連合会の最北端にあります長浜市の方から寄せていただいているのですけど、私たちの見守り隊は安全協会の方がほとんどご一緒に高齢の方とかも見守りをしていただいているので、ご一緒に見守りをさせていただいています。そういう危険性というか、それはないと思います。

　そしてもう一つは毎日立ってらっしゃる、それも今先生がおっしゃったようにご高齢の方ですけど、道路脇に出てくるようになって、そしたら通行されている方が、あの方毎日していただけるけど、だんだん危なくなってきたよねっていうお声がありました。そしたら、その声がその方に届いたのかちょっと下がって立っていらっしゃったのです。そして毎日啓発をしていただいていたので、すごいなと思いながら、でも今ちょっとね、高齢になってこられたので、毎日ではないですけど、今でも啓発をされています。いつも頭が下がる思いでございます。

村山先生：その運動をそれぞれの組織のこの情報のやり取りっていうのは近所だから、仲がいいからみたいな感じで情報をやりとりしているのですか？

●：伊賀交通安全協会っていう協会の会員さんがその場にご一緒に立ってらっしゃるので、私たちの話の中で出たことをその方におっしゃっていたのかなとも思いますけど。でもそうですね、毎日のことなのでその人本人が交通事故になるのは寂しいので、気をつけて啓発をしていただきたいなと思っていましたけど、そういうことで助かっております。

村山先生：なるほど。ありがとうございました。兵庫県の方手をあげていただいたと思うので、お願いします。

●：伊丹市です。同じようにスクールガードさんと呼んでいるのですけれども、子供さんの小学校区単位で、ボランティアで毎朝の旗当番をしていただいている方が何名かいらっしゃいます。今働く親御さんがほとんどなので、なかなかなり手がないということと、地域のボランティアの方にご協力いただいていますけれども、やっぱり同じようなことが何回かあります。私たちですね、伊丹警察署と連動しまして、学校周辺ですとか、市内で危険な自転車の事故が多いところを中心に街頭啓発活動というのをやっております。その時に地域の方がボランティアで旗当番をされているところも何回か遭遇しますが、熱心なあまりこう車道に出てですね、本当に危ないなっていうのを何回も見ております。その時私たちがその場にいれば、一応さりげなくこの場合はこうしましょうってアドバイスをさせていただきますが、もしその学校周辺の通学路でそういった方、当番をされているのであれば、学校に一度相談されるのもありかなと思いました。

村山先生：ありがとうございます。今のお話を聞いていかがですか？確かに学校とも連携しながらはすごく大切そうですね。

●：学校で校長先生なんかに私から言いにくいのでご注意くださいとかいうことはお願いしたことはあります。私、ちょうど学校の校門のとこに立っているので、入ってくる時にわかります。先生も多分見ていると思います。だから、そういう見守り隊の方たちの教室とかご指導の場を年に一回でも開いてもらって、警察と連携して勉強してほしいなと。もう 4 年経ちますけど、なかなかそれができないので、よそではどうされているのかなって。

村山先生：そっか、学校と連携するというも、それもアイデアですけども、ちょっとそれも難しいと。どうやってつながったらいいかなっていう話ですね。ありがとうございます、その辺で言うと、先程兵庫県さんからの話で、高校の生徒さんたちが主体的に、要するに行政から依頼を受けたわけじゃなくて、高校の方から主体的

に取り組んでいるって。さらにはそこに大学もボランティアでデザインをしたなんていう話になってくると、何かちょっとヒントがありそうかなと思いました。ただ、その学校となかなかつながれないと、それもそれ自体がちょっとハードルになっている状況ですね。先ほどの発表の中で学校と連携されているとお話がありましたがどうでしょうか。

●：我々はですね、交通安全を専門にやっていますけども、学校のことになるとやはり教育委員会というものがありますので、そちらの方にも声をかけさせていただいてですね、一緒に共同でやっておるような状況です。またですね、交通安全指導員の方々についても、各自治体からですね、そういった方に安全講習、道路に飛び出たらアカンよとか、周りの状況をちゃんと確認してよっていう講習も、先日私行ってきたところですけども、そういうのもありますので、県庁なり市役所なり行政の方にそういう交通安全の対策窓口があるのであれば、そちらに問い合わせていただくのも手じゃないかなと思います。

村山先生：ありがとうございます。確かに言われて思い出しました。今お話聞いていて、直接学校に飛び入りで入ってもなかなかダメですよ。新潟の場合だと新潟市の市役所の中に学校宛のメールボックスがあります。直接学校に何か案内を出すよりも、市役所にあるメールボックスにそれぞれ各学校にチラシだとか、依頼文だとかを投函できるボックスがあります。そこ経由だと割と受け取ってくれたりしますね。これは新潟市だけなのかわかりませんが、もしかしたら今ほどの話、教育委員会、要するに行政をちょっと通じて学校とつながるというのは確かに仕組みとしてありかなと思いましたね。

●：義務教育学校が 2 つあるので、2000 人ぐらいの子どもたちですが、その子供達を守れるように、1 度その方たちと行政と一緒にご指導を受けてもらえるような場を作ってくださいってお願いしてみます。

村山先生：もう一つ、うちは高校と一緒にやっていますが、実はその高校の校長先生とたまたま繋がって。おそらく普通の先生だとなかなか上にまで上がらないだろうなって思うようなことが、校長と直接話ができた時に、校長先生の思いで動ける場合がありましたね。これはたまたま私ラッキーだったなと思って、その取組を 6 年間ぐらい続けて、高校と一緒に交通安全活動をやったりしています。それが他の高校も同じようにできるかと思うと、またちょっとなかなか違ったりして、この辺は人間関係というのも含めながら、行政の仕組みも使いながらできたらいいのかなというふうに思います。ありがとうございました。

例えば、先ほど大阪府の河田会長からの話ですと、たくさん話をしていただいてありがとうございます。働くお母さんの研修の場づくりなんていうのがありました。そうですよね。確かにお母さんたち、なかなか出てこられないと。やりたい思いがあったとしても、そういうところになかなか出にくいというのも含めて、もしかしたら世代をつなげていくというところもお話を聞いていて、そういうのも一つ課題になっているなんていうふうに思いました。何かそういうのも含めて広げていって、ご意見だとかアイデアだとか疑問だとか、お願いします。

●：大阪っていうところは、日本全国、世界でも人口密度の高い場所は食べ物がなくて困っておられるとこもありますけれども、大阪なんかは本当に交通事故多発でございます。ですから、朝来られた時そしてお帰りになる時、いつもお母さんたち気をつけてくださいって、短いスカート履かないでくださいとか、夏だったら胸あんまり開けた服とか、ショートパンツ履かないでちゃんとした服装で。何でと言ったら、自動車のドライバーが見て嫌だわって言ってこられるので、そういうことはやっぱり自分で自衛しないといけない。やっぱり敗戦後、日本が貧乏になって、とても日本を立派な国にしようと思って働いてくださった後、その次の世代たちは甘やかされていた。そしてこの時代はもう結婚しなくてもいい、子供はなくてもいい、少子化でいいと、いうようなことで今いる子供たちは本当に国の宝だと思います。

その中で、今おっしゃったように学校とか幼稚園とか、そういう教育機関がどこまでできるか、警察の方でもやはり言い過ぎるとパワハラだと言われているとか、もう本当に私たち言霊という言葉ありましたけれども、危ないから危ないわよって言うと、「何が危ないねん」って大阪弁で返されると言えないですから、これから先もっともっとこの啓発の仕方を国全体から地方それぞれの地方と手を組んで、例えば道路標識でもストップはみんな分かっています。信号も分かっていますけど、一方通行は自動車にだけだと思って、自転車の人が一方通行に気をつけているところに、こっちからもあっちからも自転車が出てくると。そうするとお互いに傷つけあうじゃないですかって。

ですから、お母様たちにも意識はしてくださいと。その分だけ警察から 20 枚しかあげられません。このパンフレット、自転車の乗り方とか言うのをいただきますが、とにかく刷って全員に渡すとか、今日来ておられる方はたくさんそういうことしておられると思いますけどね。やっぱりそれをしない限り「知らんかったわ」で終わって事故が起こる。だから中学生、高校生の子でも危ないよって言ったら、警察の署長に先生殺されますよって言われました。二人で乗っているのでね。危ないよ、やめなさいとかって言ったら、「先生、殺されるから言わんとってください。僕らが言います」と、もうえらい時代になってきたなと思います。先生がさっきおっしゃってくださったように、やっぱりそれぞれ自分でこれはどう考えなければいけないかっていう取り込み、自分への取り込み、これをどう指導していったらいいのかなっていうのが私たちの一つのこれからの問題点であり、そして少子化の子供たちを殺さないで行くには、この狭い道路に沢山自動車があったら死にます。それでおまけにおばあちゃんの自転車の道路を通られますよね。よたよたですよね。

ですから、私も今まで何回か救急車を呼びましたけど、もうありとあらゆるところで危ないことばっかりっていうこの危機管理、何とか先生、全国に広めてください。

それと国とやはりもうちょっと啓発活動、私たち一生懸命もうこれ無料でやっているわけですから、もうむしろ皆さん何 10 年も、私も 45 年目ですけど、お金いっぱい出しています。子供の命を救いたいっていう、ただそれだけです。お願いいたします。

村山先生：関連した何かご意見がオンラインの中でもあると思いますので、どうぞ声出していただければと思います。

●:すいません。今のお話ではないことですが発表された各地域の方にそれぞれ一つずつ、ちょっと私、質問したいことがありまして。まず奈良県さん一年に何か所ぐらい交通安全教室を実施されてますでしょうか。

●：はい、奈良県です。安全教室は一応一つの幼稚園、学校一回ずつです。希望されましたら 2 回行くこともありますけど、大体一回です。小学校は特に授業をやりくりしないといけませんし、幼稚園の場合はお母さんの参加もできるだけ希望しておりますので、お母さんの都合等と取るのが難しい面もありまして、各一回、今のとこ各一回となっております。今まで 2 回したことはないと思います。20 回一回ずつです。

村山先生：私もちょっと同じ関連で聞きたかったことですけど、学校での授業は総合学習として入るのか、どういう時間帯でその交通安全活動はありますかね。

●：桜井市は交通安全母の会が割と浸透しておりまして。安全教室をして当たり前っていう雰囲気があります。ですから割と直接してくださいっていう風にお話をいただくので、責任重大でもありますけども、その中でどんなふうにするかっていうのは毎回いろいろ変えています。1 時間で終わるタイプと、2 時限使って低学年用、高学年用と。それはもう校長先生次第です。校長先生が、うちはあんまり安全教室しなくていいと言っていたら、何年もしていない学校もありましたし、毎年きっちりしてくださいとおっしゃる小学校もあります。幼稚園はほぼお楽しみ会です。それでいいと思っているので、お楽しみ会を週にして、交通安全は家庭からっていう

あれありますよね。私は愛情がある中で育っていればルールも守るという信念を持って、幼稚園はお楽しみ会をメインにしております。小学校はそうはいきませんよね。授業潰してするから。でもありがたいことに桜井市は交通安全教室をして当たり前という流れになっておりますので、特に何が問題ということはないです。
村山先生：それすごい。年度に入ってからお願いしに行くと、もう断られます。もう学年暦もうガッチガチ固まっちゃっているので、残念ですね。来年お願いしますって言われますね。引き続きお願いします。ご質問を。
●：ありがとうございました。滋賀県さんは子ども自転車大会についてお聞きしたいのですが、実際に全国大会もあると思いますが、小学校にどんな感じで参加を募集かけられているのかなと思いまして。代表校 1 校なのか、それともたくさんいる小学校の中から 1 校が選ばれて、大会に参加されたのかとか、どういう内容なのかをちょっと知りたいです。
●：よろしくお願いします。子ども自転車大会ですけれども、滋賀県でもですね、かつて非常に多くの小学校が参加してくれていたのですが、やはり先程話がありましたとおり年間の授業が決まっているとか言う話もありますし。そもそもですね、放課後に習い事が増えてしまったとかということで、親御さんが習い事の方に行かせるということで、どんどんと減っていっていましてですね。
　滋賀県、いろいろな地区はありますけれども、それぞれ減っているというところで、かつてはですね、警察署もしくは地域の交通安全協会が直接ですね、校長先生なりにお願いをして複数校を地区予選という形で選抜して県大会をやっていましたが、今はもうそもそも地区でも校長先生も頷いてくれないとかいうところがありまして、特定の決まった学校がもう地区予選がない状態で出てくるというような形がちょっと多くなってしまっております。基本的には地区の交通安全協会さんと警察署、ここが学校に直接申し入れをするというような形で対応しているというふうに聞いております。
●：ありがとうございます。すいません、和歌山県さんの安全運転コンテストの内容についてちょっと知りたいです。
●：あたしたちは直接行ってなくて、御坊市役所の方に県警から一人警察官の人が 2 年交代で来られていて、その方が今年初めて市内の小学校の 6 年生対象に試験、さっきも発表したようにペーパー試験と、実際に簡易横断歩道を作ってそこで実地テストしたみたいです。実地テストはやっぱり一人ずつになるので、最初の人が間違ってしまって、でもそれ間違っているって言えなくて、2 番目の人も続けて間違って途中でそれは間違いですよって言ってしまったっていうようなことがあったようです。今年初めての試みなので、詳しいことはちょっとこれからまた続けていけたら。先生達にも好評だったので、ペーパーテストの満点は一人だったそうです。以上です。
●：ありがとうございます。大阪府さんですけども、3 世代交流、みんなの交通安全教室についてですが、ヘルメットはどのぐらいの数を寄贈されたのか知りたいです。
●：去年まではね、200 ぐらいくださっていましたけど、今年は 30 組の親と子供に差し上げたということでございます。この交渉は交通安全協会とか皆さんでやってくださっているので、そうして気持ちよくくださって買ってくださる方が増えたらいいのになっていうのは願いです。でもやっぱりヘルメット協会もおっしゃいますけど、売れないとあげられないというのが本音だと思います。やっぱり利潤がないと差し上げるだけの心はないので。ただ命を守るためにかぶってみてくださいということで、前は大きなホールで研修がありましたら、行った人みんなもらいます。今年はおばあちゃんたち、お爺ちゃんたち貰われて、去年もそうでしたけれども、喜んでおられましたけど、年取って 90 でも自転車に乗っている人もありますけど、78 ぐらいで乗らなくなりましたっておっしゃる方もあるので、お父さんお母さんに譲ってくださいとか言っています。子供は頭が大きくなるの

で、「先生、これ幼稚園の間は被れますけど、小学校は行った上で減るので、もうちょっと大きいサイズが欲しいわ」とかっていうので、ぴったりかぶらないとだめですっていうことはお話しします。

ですから大阪って皆さんどう思っていたらわからないですけど、地方からいっぱい人が来ておられるので、純粋な大阪人っていうのはどうなのか。私もちょっとよく自分純粋な大阪人ですけど、なんせお金に細かいですよね。どこの県もそうかもわかりませんけど、そこらへんが一番運営で困っているとこでございます。やはりヘルメットというのはお金が要ります。タダでもらうのはありがたいです。ですけれども、先程の高校生みたいにたくさんもらえるっていうのは羨ましいなと思います。大阪の高校生全員に配ってやってほしいなと心から思いますけど、それにはどこかの会社が大きなスポンサーでお金出してくれないとできないなと。一体どこがスポンサーになってくれるのだろうか。そこも一番私の今興味あるところでございます。ありがとうございます。

●：同じ兵庫県として、自転車のヘルメットの着用について、そのかぶってくださいねっていう高校の選定はどんなふうにされたのかなというのをちょっと知りたくて。また来年度も予定はありますでしょうか。

●：これについてはこういう授業をしますよっていうことを各学校に伝えました。そこで、興味あるなっていう高校にはですね、当課のものが行きまして、事前にレクチャー、こういう事業ですよっていうのを説明いたしまして、それでお断りされたら、そこの学校はもうモデル校では参加しないってことで、それでも説明行って、じゃあそれだったらうちの高校をやりたいですっていう手を挙げてくれる高校を選定しました。

またですね、事前にアンケートをとりましてヘルメットをちゃんと配ったらかぶってくれるの？というアンケートしまして。自転車通学してもかぶらないよっていう子には渡さず、自転車通学していてなおかつモデル校になってヘルメットをかぶってくれますよっていう子に配布をしている。何でもかんでもばらまきではなくて、ちゃんとかぶってくれる子とかぶってくれる学校を選定してあげさせていただいております。また今のところですね、ヘルメットを新しく寄贈してくれるという話はないのですが、モデル事業というのはもう今後も継続的に各校取り組んでもらおうかと思っています。伊丹市さんも高校からお話とかあれば、ぜひとも上瀬宛に連絡いただければ、私とか他の者がその高校行って説明等いたしますので、よろしくお願いします。

●：日本の行政として、高校生にどうやったらヘルメットをかぶってもらえるかなっていう学校の授業の中で、今探究っていう授業がありまして、その中で課題を私たちから与えてですね、今年のテーマが高校生の自転車ヘルメットをかぶるようにするにはどうしたらいいかっていうのを実は投げかけています。

これ、ある 1 校だけですけれども。来週にその子供さん、生徒さんが考えた内容の発表会があります。その中でどうして尼崎だったのかなみたいなのを聞かれました。ちょっと詳しくは私どもも聞けてないですってお話をしていたので、今後もそういう取り組みが平等にしていただけるのであれば、こういう形の授業ありますよっていうのをちょっと積極的に我々の方も訴えていこうと思いますので、よろしくお願いします。

村山先生：ありがとうございます。確かに探究学習を活用するのは非常に手かなと思いました。言われてみれば、高校生と一緒に時間使っているのは探究学習の時間でしたので、そういう時間があるということを教えていただきまして、ありがとうございます。どうぞお願いします。

●：滋賀県ですけど、いろんなことを今お聞きしましたけど。やっぱり地域性もあるし、そしてその県にもよると思います。私たちの方は田舎の方なので、せっかくヘルメットのこと言ってくれたけど、坂が多いので自転車は乗らない。けども、ある程度の高校へ行くと、警察がこういうことするから女性部も来てって言われて行きますよ。それでヘルメット被ってほしいと言ったら女の子は髪の毛のセットが崩れるって言われます。そこでね、「セットが乱れるのが嫌やけど、命か頭のセットかどっちが大事や」って言ったら、それは命かなって言いますし。今も言ったように私たちもいろんなことを啓発しています。高齢者訪問 300 戸を地域の女性部と回って

いますが、101 歳のおじいさんが元気でね。私らもそのおじいさんのパワー持って帰りますなとか言うて。その世帯訪問とか自転車とかいろんな啓発活動を私らは警察と一緒に動いています。
村山先生：ありがとうございます。確かに県ごとの課題だとか、特徴だとか、県は県でも市街地と山間部でまた違ったりしますからね。そういうのをこういったところで話をしてもらうことは非常に重要なことで。もしかしたら県は離れていても実は何か同じような課題があるとか、例えばですね、先程大阪の指切りげんまんの話があって、ふと福島を思い出しました。なぜかというと、うちの福島出身の学生たちが赤信号は絶対渡らないって言います。それは当然ですよ。でも周りに車がいなかったら、ちょっと行っちゃうじゃないですか。しかも田舎の中だったら行っちゃうじゃないですか。でもその福島の学生たちは絶対渡らないって言います。なんでというと、これ指切りげんまんでふと思い出したことですけど、赤信号を渡るとお化けが出るって言います。多分ちっちゃい頃に赤信号を渡るとお化けが出るみたいなことを言われて育ったのだろうなと思うと、今ほどの指切りげんまんの話もそうです。小さい時にそういうことをやっているのが頭の中に残っていると地域離れていても、子供たちへの声がけって何か近いことがあったりするのかなと。確かにいろいろあるなんて思って聞いていました。是非、地域や県が違っていても共通点があるところもあるかもしれませんし、そういったところで悩んでいるところもあるなんていうことを聞いてもらうのもいいかもしれませんね。ありがとうございました。
●：すいません。「いかのおすし」っていうのはどういうことでしょうか。
●：「いか」は知らない人に付いていかない。「の」は知らない人の車には乗らない。「お」は知らない人が連れて行こうとしたら大声を出す。「す」はすぐ逃げる。「し」はこんなことがあったって知らせる。「一人前」は一人で出かける前には必ずおうちの人にどこへ誰と行くか伝えて行く。
村山先生：ありがとうございました。あの、先程の御坊市さんの部下は「ブタはラベル」って言ったじゃないですか。「ブタは喋る」って割と全国にあったりしませんか？あれラベルだったかな？って。喋るじゃなかったかなということ調べると、警視庁のホームページにも「ブタは喋る」って出ていますね。だから「ブタはラベル」っていうのが調べると出てこなくて、これは御坊市さんのオリジナルですよね。警視庁のホームページで「ブタは喋る」の「喋る」がですね、車体をグルっと確かめよう。御坊市さんはライトですね。特にライトってことですね。車体の中の特に暗くなってきた時にちゃんと点灯するかどうかを確認してもらうようにしていると。いいじゃないですか。そういうことですね。私今日初めて御坊市さんオリジナルのものあるっていうことを教えてもらって。せっかくなのでインターネットで検索できるような、何か載っけるといいなと思いましたね。「いかのおすし」だとか「ブタはラベル」だとか「ブタはしゃべる」だとか、他にいろいろありますか？「ブタはラベル」を聞いて思ったことですけども、これそういう取り組みやインパクトのある言葉だとか、そういった取組ってやっぱ気になるとすぐこうネット調べたりしますよね。すごく重要だなと思っていて、おそらくその地域オリジナルのものをどんどん作って、どんどん情報発信していくっていうのは大切だなって思いながら報告お聞きしていました。
　例えばこれ交通じゃないなかったと思いますが、富山県は 14 歳のチャレンジって言って、14 歳になったらいろんな外に出て、いろんな体験をしよう、経験をしようっていうのを 14 歳のチャレンジって言ってやっていますね。14 歳って入れたりすると、富山県が出てきたりします。なんで 14 歳って言うかというと、先程私がしゃべった中でちょうどその 14 歳とか 18 歳とか、その辺りにいろんな体験をしてもらうのは大切だなって思っていて。その 14 歳のって入れると富山県が出てくる。なぜ富山県が出てくるのかと思ったら、14 歳にチャレンジをしてもらおうっていうのを富山県がやっているってからですね。いろんな情報を今こうやってネットでずっと収集しようと思うと、例えば「ブタはラベル」なんていうのがネットに引っかかってくると、皆さんの活動が

より注目されてくるのかな、なんて思ったりしますね。いろんな話にこう膨らんでいったりしていますけども、だんだん時間なってきましたね。どうぞお願いします。
●：ありがとうございます。あたしもう 40 年もしていますから、反射材が流行った頃、ほんとみんなに京都の芦屋なんかでもお化け屋敷とかしてくださったり、すごく楽しい出し物をしてくださったりして、反射材を活用しましょうっていう時がありましたけれども。子供たちが夕方出てきたら自転車と鞄と制服、ライトもつけてないから真っ暗な集団が出てきます。片手は鞄に反射材が付いているとか、夕方に必ず反射材のバッジか何かにそういうものを付けるとか何かあれば危なくないのにとか思いますけど、集団で動いてくるから、私たちもお母さんたちには反射材つけてくださいって言ったら、母の会が反射材を真四角に塗って、ただ安全ピンつけただけですけど、交通安全ていうのを推して、お母さんたちがつけたりして自転車になってくれるようになりました。
　ですから反射材もこのごろ何にも皆さんおっしゃらないですけど、学校の制服とかに縫い込んでいるとこもあるらしいですね。都道府県はわかりませんけれど。でも私の園ではそういう風に反射材も活用していこうと。特に犬ちゃんは嗅覚がよくて賢いから、前から自転車がきたら止まるわけですよね。だから私いつも思いますが、人間もそういう風に前から来たらぱっと止まれるというような瞬間反射とか敏捷率があったらいいですけど、今の子はテレビがビデオかタブレットとかゲームしているので、都会の子は敏捷性がないです。そういう意味で、先ほどおっしゃった都会と地域とは違うと思いますけれども、反射材の活用もう少し考えていただいたらどうでしょうか。
村山先生：ありがとうございます。実は一昨日の東北ブロックでは 50 分間ずっとその反射材の話で、ずっとどこに付けたらいいのかとか、反射材を買うとして予算はどこから出てくるのかってずっとその話で盛り上がりましたね。せっかくなので反射材の位置の話を。やっぱり位置と目線、どこに付けたらいいとかって、何か意識されたことってありますか？
内閣府：私は朝 22 キロ走ってきましたけども。朝 4 時に起きて、4 時半スタートで大阪城の周り 4 周しました。真っ暗ですね。朝走るのがルーティンなので、もう暗いうちに走り出さないと仕事間に合わないので、反射材つけて走っています。足のくるぶしに巻きます。この趣旨っていうのは低い位置で動きのあるところっていうのは非常に効果的です。車のライトはハイビームが基本ですけど、大体皆さんロービームで走っていきます。下向きのライトで走ってくると、やっぱ低いとこで動きのあるところはよく目立つなっていうことで、靴のかかとに貼るのが非常に有効かと思います。それとあとはこれヘッドライトですけど、キャップに付けます。相手に自分の存在を知らせるっていうものと、あと自分の行く道を照らすっていう、こんなものを必ずつけております。自身を守るっていうこともそうですけども東北の方でも話がありましたけども、車の運転手さんのためですからって言って配るっていうのを一つの手段かなと思います。嫌がる方もいらっしゃるけども、そういった場合は車の運転手さんのためにつけてくださいっていうふうにすると、受け取ってもらえると。こんな話をしておりました。参考になりましたら。
村山先生：ありがとうございました。ずっとどこに付ける、どこで買うとか、いろんな話をしていました。こちらの近畿ブロックの皆さんはどうでしょうか。
●：どこにでもつけられるので大変便利です。それを高齢者訪問とかに配布させていただいたりして、皆さんに活用していただいています。
村山先生：そういう予算がちゃんとあるってことですね。やっぱり反射材の話は盛り上がりますね。はい、お願いします。

●：春、夏、秋、冬に交通安全週間があるでしょう。その時に啓発で反射材とかティッシュとか配る際に、スーパーの前とか道とかで、その時に反射材は必ず入っています。そのプレゼントで配る中に自転車とかに使うものをいれています。市役所と県庁と御坊警察署がみんなボランティアというか、私ら交通指導員も含めてその品物を持ってきてくれた時もあります。
●：伊丹市はこんな反射材を作っております。オリジナル反射材です。伊丹市のマスコットキャラクターのたみまるが描いてありまして、裏に「とまる・みる・まつ」というのを書いています。これ、幼児教室で 50 か所に 2000 個ぐらい作って予算を取って、毎年配っています。
村山先生：近畿ブロックの皆さん、まず反射材をちゃんと作って配れるという、財源があるというのは素晴らしいなって。だから同じ日本と言ってもそういうのを作れない、どうしようかっていう地域もあるってことですね。皆さんいいですよ、羨ましいと言いますよ。ちゃんと反射材あるよって言える地域だとかあると、そうじゃないところもあるっていうのをちょっと分かっていただきながら。せっかくなので皆さんそれを大切にいろんな人たちにもれなく配っていただければなと思います。

■講評

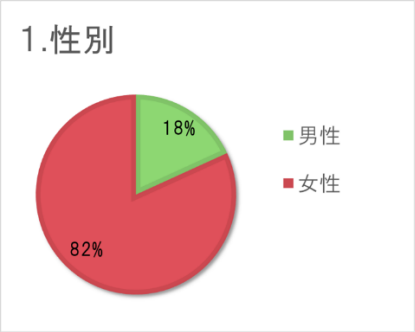
私から締めの講評の時間をちょっとだけ作らせていただいて締めたいと思います。今日 1 日お疲れ様でした。ありがとうございました。前泊の方々はどのぐらいおられるのですか？みんな日帰りなのですね。そうでしたか。良かったです。朝早くからお疲れ様でした。皆さんの意見交換会ありがとうございます。皆さんがどういうところに視点を置いているのかというのがなんとなくこう見えた気がします。他のいろんなブロック参加していますと、やっぱり思いがすごく強くて、前に出てみんなでこう演劇していたところもあります。どんな形であれ、皆さんが日頃取り組まれていることはここで共有できたと思います。本当にありがとうございました。

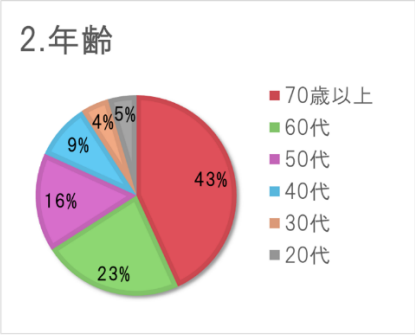
私はですね、ここだけの話ですけど、交通安全活動をしていると何か取材とかがあるかもしれないですね。その時に我々が驚いたのが、メディアの方とやりとりしていて、関係する方がどなたか事故で亡くなったりされたのですか？みたいな。こんなに一生懸命取り組まれているのって、何か事故とかそういったことがあったのですか？と言って、学生たちにもこう聞いて。ちょっと遠い親戚があるかもしれないですけど、うちはないみたいな話でした。その話をメディアの人に伝えたら、それは残念だ。誰かそういった事故に遭ったとか、そういう当事者だとストーリーが良かったみたいな言い方をされちゃって、そういう風に思われていると思いました。ここだけの話ですが。だからといってメディアを批判とかそういう話じゃなくて、一生懸命やっていると、身内に何かそういう人がいるから頑張っているみたいな見方をされるのかと思いました。みんなたまたまかもしれませんけど、交通事故にならないようにというところに関わって、そして関わってみたら大切だったことに気づいたということですよ。そこに意識のない人達は交通事故の当事者だから頑張っているという見方をする人もいるって話ですね。もしかしたらいるかもしれません。だからそれが良し悪しの話じゃなくて、本当に皆さんが活動されていること、これは素晴らしいことです。そして堂々と活動されていると思います。中にはですね、交通安全活動をできると時間があっていいねって言われます。あんたは時間があっていいね。

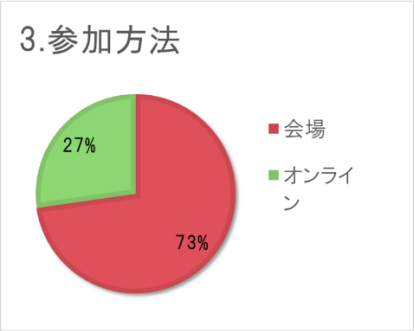
これ健康の話にしてみますと、健康教室に向かうスポーツバッグ持って出ていくと、近所の人からあの人遊びに行っていいねって言われる。自分の健康のために公民館で教室やって、遊んでいていいねって。交通安全活動、ボランティア活動をしている人たちは、時間がある、余裕があるからやれるっていう見方をしちゃう人が少なからずいるって言うわけですよ。

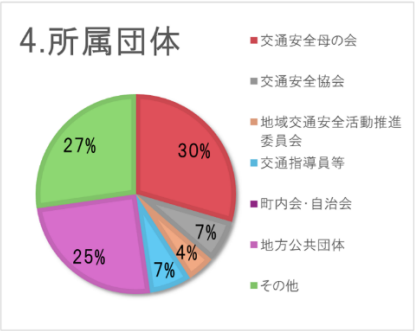
皆さんの周りじゃなくて、これまでいろんなところ回ってきて、そういう見方をされる人がいるって思います。もしかしたら皆さんも同じ思いをされた方がいるかもしれませんが、ないかもしれませんが、皆さんがやっていることは本当に素晴らしいことで、堂々としてください。なんでそんな話しているの？と思われればそっちがいいですよ。堂々とやっているよって。もう恥ずかしくないよ。それが正しいです。全国いろんなところ皆さんと話をしていると、いろんな見方をする人がいるなんていう話を最初か最後にしたりします。悲壮感じゃなくて、楽しく仲間を作りながら、そして皆さんを追っかけて、若い人たちが集まってくる、そういう仕組みをぜひ作っていただけたらなというふうに思います。どなたかが言っていました。皆さんがやっている活動が子どもたちに伝わって、子どもたちがいつか大人になった時に、交通安全のことを今度は自分が伝えるようになるって、そのサイクルができると非常にいいなと思います。近畿ブロックの皆さん方の取り組み、改めて本当に敬意を表して今日は終わりにしたいと思います。皆さんご自身、あとは仲間に向けて最後拍手をして終わりにしたいと思います。どうも今日はお疲れ様でした。ありがとうございました。

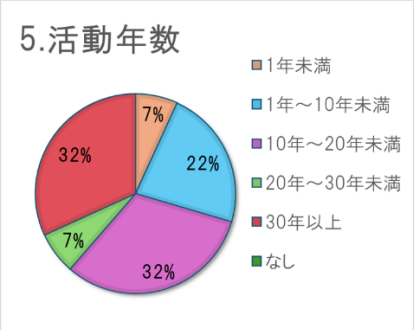
3.アンケート集計結果

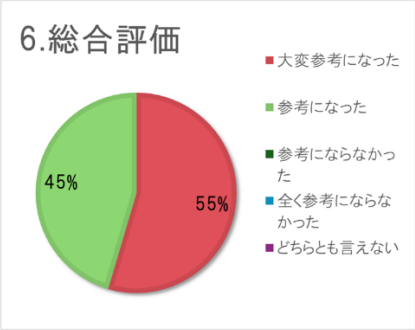

1.性別
18%
82%
男性
女性

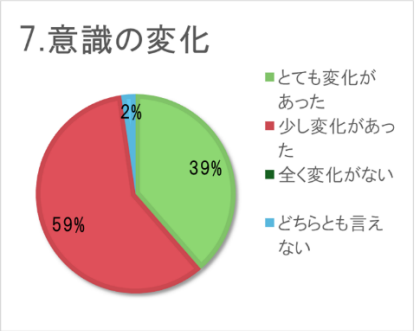

2.年齢
43%
23%
16%
9%
4%
5%
70歳以上
60代
50代
40代
30代
20代

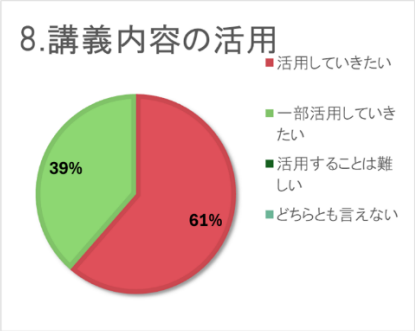

3.参加方法
27%
73%
会場
オンライン

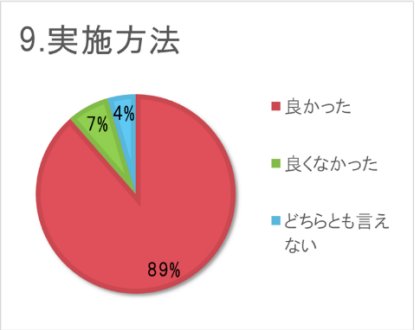

4.所属団体
27%
30%
25%
7%
4%
7%
交通安全母の会
交通安全協会
地域交通安全活動推進委員会
交通指導員等
町内会・自治会
地方公共団体
その他

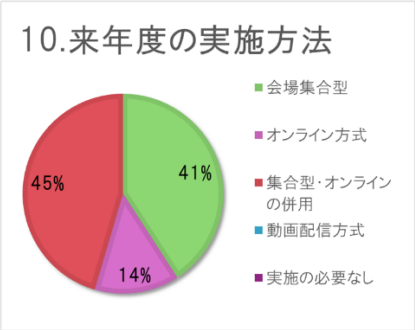

5.活動年数
7%
22%
32%
7%
32%
1年未満
1年～10年未満
10年～20年未満
20年～30年未満
30年以上
なし


6.総合評価
45%
55%
大変参考になった
参考になった
参考にならなかった
全く参考にならなかった
どちらとも言えない


7.意識の変化
2%
39%
59%
とても変化があった
少し変化があった
全く変化がない
どちらとも言えない


8.講義内容の活用
39%
61%
活用していきたい
一部活用していきたい
活用することは難しい
どちらとも言えない


9.実施方法
7%
4%
89%
良かった
良くなかった
どちらとも言えない


10.来年度の実施方法
45%
41%
14%
会場集合型
オンライン方式
集合型・オンラインの併用
動画配信方式
実施の必要なし

問11.今後取り上げて欲しいテーマ、講演等について
・青切符制度開始に伴う講習の方法について
・幼児安全講習、特に幼少 0,1,2 歳児用講習
・子ども達の(特に中高生の)安全教育について
・効果的な安全教育の手法(心理学的見地の説明法、話し方など)
・登下校見守り隊のボランティアへの指導について
・多動お子さんの指導の仕方を教えてほしい
・幼児の交通安全指導方法について　ワオの事故が多いのでその前に行うことを知りたいです
・高齢者の交通事故防止
・これからの交通安全について
・自転車の免許制度、キックライダーの廃止
・外国の方の交通事故率
・保育園、幼稚園小学校での交通安全教室を実施することが大切
・交通安全の講習が大変勉強になるのでこのような事がよい
・交通安全教室の教材や活用方法についてご教授いただきたい

問12.本講習会以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるために必要な機会について
・交通ボランティア、講習のためのネットワークの基礎をつくりあげていきたい
・動画サイト(ユーチューブ)での動画配信による講習の受講(年間を通して視聴可)
・視聴覚に訴えるプロジェクターに写真だけでなく、動画の利用もいいのでは
・県警や他の団体が行う研修会
・色々聞きたい
・交通道路標識のルール　STOP だけではなく一覧を学校でも教えてください
・地域交流、世代交流の仕方
・一人でも多くの方に講習を受けてほしい
・無料のオンライン講座は非常にありがたいです。また自転車の反則金制度について、講習をしているため非常に参考になりました

問13.その他、ご意見ご要望ご感想など
・大変勉強になりました。ありがとうございました
・お世話になりありがとうございました。内容とても良かったです
・新潟大学の先生が話されていたように例え一年に一度であっても会場に顔出し出来、お声掛けすることがいろんな意味で参考になる。講演の「こどもの交通事故防止について」中身の良いお話だったのに資料がなくて残念でした。オンライン制は大変便利で良いけれど直接顔を合わせていないと何かしら味気なくも有り、通じにくい気がする
・内閣府の要請を受け 45 年しております。車が多い。道幅はせまい。自治でのアイデアをお願いします
・講演の内容が一時間あっても足りないくらい充実した内容だった。色んな支店から交通事故防止対策ができる事を学べた

・交通安全はまず家庭から
・講演の村山先生の話はこどもの事故防止についてから広く人生感を学ばせてもらいよかったです。意見交換も同じ人の発言が多かったです
・活発に活動されている方々の発表有難うございました
・参加させていただき参考になる所はおおいに利用させていただきます。ありがとうございました
・今後 zoom 参加が増えると思いますので zoom の扱いに慣れて頂けたらと思いました。アンケートも QR コードを載せて頂けると集約も楽ですし、回答する方も楽だと思います。お疲れ様でした。ありがとうございました
・参加者数について。地域差はありますか

4.写真

開会式　内閣府　村松参事官補佐

講演　村山先生

講演　彦坂先生

活動事例発表の様子

活動事例発表の様子

意見交換会